

# ひるがみ

第 81 号

令和 2 年 11 月 28 日

発行

障害者支援施設  
阿智温泉療護園

社会福祉法人 下伊那社会福祉会

〒395-0304

長野県下伊那郡阿智村智里昼神

TEL 0265-43-3172 FAX 0265-43-3173

ホームページ

<http://achion.com/ryougo/>

## 「死力を尽くす」

園長 岡庭保人

日経新聞によれば、歴史の命運を分けるサイコロのいくつかはウイルスが握っているとのこと。気まぐれなウイルスは深く潜伏しつつ変異を重ねており、いつ人類に牙を剥くのか予断を許さないのです。

今まさに、私たちはその気まぐれな新種のウイルスに牙を剥かれ翻弄されている最中です。しかしながら、どのようなウイルスが登場しようが、私も職員の仕事は、利用者さんの安全を確保し命を守ることに変わりはありません。

園内にウイルスを持ち込まないこと、万一持ち込んでしまったときにどう対処すれば最小限の感染で抑えることができるのか、専門の先生方のサジェスチョンを受けながら改革に着手しています。

まず、十月より男女で分けていた南北の居室棟を、障害の重さ等を考慮して男女混合型に変更しました。それに伴い、生活支援職員も二分し、昼夜を問わず配置棟専属での介助体制としました。

また、いざという場合に備えて各棟に空室を用意し、ゾーニングする区域を明確化して

います。面会規制、外出制限が継続し、保護者の方々にもご苦勞をおかけしています。ショート利用も今年度はストップせざるを得ません。

関係の皆さま方には

多大なるご迷惑をおかけしますが、全職員、死力を尽くしてできる限りの手段を講じてまいります。皆さまには今しばらくのご理解ご協力を伏してお願ひ申し上げます。



紅葉で色づいた網掛山と施設周辺です。

## 施設間研修を経験して

十五年前に経験した介護職、さらに介護度の高い職場で研修を一年間経験して、想像以上にきつい職場と初日に理解できました。とにかく、生きること

をサポートする職業で利用者のためにひたすら働く。一日終わると体がバキバキでした。利用者個々のニーズに合わせた処遇がシステム化され、効率よく仕事を

することが多く、何度上手いことなくても丁寧にご指導いただきました。効率化された中にも職員のお互いの気持ちが大切にする姿勢があり、すてきなと感じました。利用者さんにも上手に介助できなくても大丈夫、ありがとうと声をかけてもらい気持ち

（慈恵園 M・S）

## 心肺蘇生法講習会

心肺蘇生講習会に参加し、何より驚いたのは「人工呼吸を行わなくても良い」と教わったことです。要救護者が感染症を持っている可能性もあることから

接触感染を防ぐ目的で近年は行わなくても良いことになったそうです。その代わり心臓マッサージを「強く・速く・絶え間なく」行うことを教わりました。



心肺蘇生法講習会の様子になります。

手順を確認し、早速実践。実践してみると、周囲の安全確認や呼吸の確認を十秒間行うことがもどかしく、すぐに心臓マッサージを行うおうとしてしまいました。しかし自分を守ることも大切と教わったため、忘れないように心に留めておきたいと思えます。いつ・どんなときでも要救護者を発見したときは焦らず今回教わった内容を思い出し、冷静・適切に処置を行えるようにしていきたいです。

（A・K）

## 秋の交流会

十月十四日に毎年恒例の秋の交流会が行われました。例年通りなら家族交流会として利用者さんの御家族を招待していましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染予防により利用者さんのみで行う事になりました。また、感染症対策のため利用者さんも長時間一か所に集まる事が出来ず、規模を縮小して行わざるをえませんでした。そんな中で行ったのが



プロジェクトマップの様子になります。

プロジェクトマップの公民館よりプロジェクトを借用し大画面でデイズニーや花火の映像を流しました。午



大好評な昼食でした。

（T・S）

# 脚のないベッド

私は今から三十八年前、短期入所で療護園にお世話になりました。その際、居室にあったのは脚のないベッドでした。私は床から起ち上がることに、独りで車椅子に乗り降りできたので、療護園では予めこれを用意してくださった

のです。

このベッドには後年伊那市にできた同様の施設「大萱の里」で再会しました。恐らく、職員のHさんが療護園から大萱の里へ転任される時、当園から譲り受けられたもの、と思われます。

そもそも、大萱の里が建設されたのは、この時の私の短期入所が

# 介護員室だより

夏も過ぎ、冬に向け肌寒い季節になってまいりました。衣類や寝具を冬物に替えている方もいらっしゃると思います。

季節の変わり目は風邪もひきやすく、職員共々健康管理に気を付

けながら過ごしています。

健康といえば、新型コロナウイルスに関する、以前より落ち着いたように見えますが、ニュースを見る度に心配している方も少なからず見かけます。

当施設も、十月よりコロナ対策として業務内容が一新され、新し

きっかけです。その私がか今療護園で、大萱の里の短期入所では脚のないベッドに寝たことも懐かしんでいるのです。ご縁とはまことに不思議なものです。

(利用者H・K)



い職員も加わり、利用者様からすれば色々新鮮な月になると思われます。

職員、利用者共に、新しい生活に慣れるまで時間がかかりそうですが、お互いに協力をしていき、以前のように余暇を楽しめるようになっていけたらなあと思えます。(N・O)

# はじめての出張販売

八月、療護園に伺い、初めて出張販売をさせて頂いただけることになりました。みなさまのご希望に添える商品があるのか不安でしたが、タオル、マスコット人形、ファンシー雑貨、本などを、職員の方のご協力をいただきながら並べ、開店しました。「すみっコぐらし」のキャラクターグッズが可愛いと評判でした。

吊り下げている方を多くお見かけし、ほっこりした気持ちにさせていただきました。みなさまにお会いする機会はないので、出張販売で直接、お目にかかれるのが楽しみです。

これからも喜んでいただけるような、また目の保養になるような商品をお届けできればと思っております。これからもよろしくお願致します。

(三柘)



始めは「口」の字型に机を並べていたのですが、ソーシャルディスタンスを取るのが難しく、今は「コ」の字型にしています

# ものづくり同好会

秋の家族交流会に向けた展示作品の製作はこの同好会の大きな活動の一つです。皆様に作品を見て頂ける良い機会ですので気合が入ります。

毎年工夫をしながら色々な作品を作っていますのでどんな物を作ろうか悩んでしまいました。今年も職員から多くの意見を出してもらい、その中から牛乳パックの小物入れを作る事に決めました。

厨房の皆様にご協力して頂き、皆が毎日飲んでいる牛乳のパックを利用しました。

コロナの影響で御家族に作品を見て頂けないのがとても残念ですが、来年はものづくり



ものづくり同好会の展示の様子になります。

同好会の気合の入った作品を笑顔で見ている事を願っています。

(M・K)

## 新任職員挨拶

八月からお世話になっている下原裕美です。

私は介護の仕事をするのが初めてです。皆さんと同じようにできるのか、とても不安でした。何もわからないまま入ったので、利用者の方との関わり方や、オムツの種類や排泄の事、食事や着替え

## 夜間火災避難訓練

十一月二十七日、夜間を想定した火災避難訓練を行いました。

夜勤職員四名、施設長と防災委員二名、利用者の方八名に参加して頂いて、訓練を行いました。

実施してみると防火

扉に向かって避難しようになったり、避難を予定していた利用者さんが見当たらなかったりして反省点が浮かび上がりました。今回の反省点を職員間で共有し、非常時になっても落ち着いて冷



訓練の様子になります。

静に行動出来るようにしたいと思えます。

(Y・S)

です。これからは技術面だけではなく、心のケアもできるような人になりたいと思っております。皆さんよろしくお願ひします。

## 現況報告

令和二年十一月一日現在

利用者 四十八名

職員 四十五名

(非常勤職員を含む)

## 編集後記

今年も新型コロナウイルスに翻弄された一年になり、当園にも多大な影響が有りました。

来年は感染症が収束して明るい一年になれば良いと思っております。

